

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	福岡県みやま市瀬高町下庄480-3
自己評価作成日	平成25年12月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成26年1月23日	評価結果確定日	平成26年2月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との連携を蜜に取り、地域に貢献すべく、地域の老人に対して「認知症予防」の為の出前講座に出かけたり、年に3度当事業所に於いて「認知症予防教室」を実施している。入所者様に対しては、理念のごとくゆったりとした介護を実施している為、老人間のトラブルがほとんど無く笑顔が絶える事が無い。ごはんが美味しいと喜ばれている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から一歩奥まった所にあり、田んぼに囲まれ、隣には宅老所もあり、大変静かな環境の中に立地している。施設長と全職員が高齢者を敬い、丁寧な言葉かけをしている。食事の時の利用者の挨拶は「感謝していただきます」と発せられ、笑顔と会話のある食事風景である。食事も大変おいしいと、ほとんど全量摂取されている。介助の方2名も一緒に食事している。家族は職員を信頼して利用者のことをまかせており、職員のやりがいにつながっている。市との関係も良好で、利用者は理念通り、「地域でともに暮らせる幸せ のんびりゆったりその人らしく」暮らされている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、主体性を大事にし、個々に合った生活を理念の基に支援を行い、自分らしく生活される様日々取り組んでいる	職員は「地域でともに暮らせる幸せのんびりゆったりその人らしく」という理念を毎朝唱和している。また、日常的に理念を共有するためにホーム内の見やすい所に掲げ、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に出かけたり、施設の行事に地域ぐるみで参加してもらったりしている。散歩の時は近所の方達に挨拶を交わす等、地元の方達との交流に努めている	地域の老人会や認知症予備軍の方々を対象に、年1回3地区ごとに公民館で出前講座を開催している。事業所の夏まつり、食事会に地域の方を招待するなど、地域との交流に努めている。本年度は、郷土力士とのふれ合いの場に入りきれない程の参加があった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームに於いて、「認知症予防教室」を開講し、地域の方達のバイタルチェックを行い予防についての講義や、レクリエーション、ホームでの食事を味わってもらい交流を図るなど指導を行い地域貢献に努めている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地元の関係者とのつながりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	2ヶ月毎の開催で、区長、民生委員、相談員、市介護課からの参加があるが、家族代表は現在欠員状況となっている。また2月より消防団からも参加予定で、避難訓練の充実が図られている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事等に参加して頂いた際に行政からの現状等の各種情報に基づき更なるサービスの質の向上に取り組み実施している	市の担当者の異動時は必ず情報交換をし、関係づくりをしている。市役所に近い地の利を活かしてよく交流し、協力関係も築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はされていない。出かけたいしぐさや雰囲気を感じ、止めるのではなく、やさしく声をかけ一緒について行く等、安全に配慮しながら自由な暮らしを支援している	身体拘束15項目に照らし、常に不適切な点がないか意識している。職員は身体拘束をしないケアについて理解しており、玄関施錠をせず、優しい声かけや、理念通りのゆったりした支援を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて学習機会があり防止に対して施設職員間で目配り等を実施している。現在迄虐待の事例なし		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて学ぶ機会を持ち学習する。利用者の方に必要性があると思われた時は不安なく活用していただく様にしている	施設長は、全国のグループ研究の勉強会に出席し、資料・内容を職員に伝達講習している。成年後見制度の活用経験は2例あり、職員も体験している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に本人様、御家族の方に説明して納得された上で捺印して頂く		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族が困っている事、不安な事、求めている事を聴いて職員も参加し運営に反映させている	家族へ電話やケアプラン送付の際、また来所の折に意見を聞き、意見を出してもらえるよう工夫している。意見箱には時々意見書が入られることもある。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	課題は職員会議の中で話し合い、反省すべき事など報告がある時は話し合っている	職員同士の食事会などでコミュニケーションをとりながら意見や要望を聞くこともあり、出された意見などは管理者会議で検討し、返答するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って、就業環境の整備に努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	差別等なく勤務出来ている	資格の有無に関係なく、やる気と利用者への接し方、介護の考え方などを考慮し、責任ある立場への登用を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	2ヶ月毎に職員会議にて学習機会があり、常に職員は言語等に注意し、利用者様が安心して過ごされる様留意し、人権教育に取り組んでいる	常日頃、介護に必要なことは人権の尊重であることを念頭に置いている。利用者をひとりの人間として、人生の先輩として敬い、丁寧な言葉を使うことを徹底している。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を選抜し、研修に参加させ、職員勉強会にて発表、利用者様一人ひとりのケアが充実したものになる様、働きながらトレーニングに励んでいる		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問の活動を通じて交流を図っている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等に傾聴し、本人様が望まれる事を確認する。信頼関係を築きながら安心して過ごせる様、援助している		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事、要望等を援助と共に安心して暮らしてもらうよう、信頼関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態を把握し、他のサービスの必要性を含めて見極め、紹介を行う		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物のたたみ方、花の挿木の仕方など教えてもらい今では菊の花が咲き生活の場となるよう生き生きと暮らし支えあう関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	各行事の参加を呼びかけている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域内を散歩したり、場所を考えなが ら外出したりする	利用者の馴染みの美容室に行ったり、 地域内を散歩したりしている。また、 法事や祝事などに参加し、関係が途切 れないようにしている。家族・利用者 の希望に沿った支援に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションの参加や利用者の方達 の話しやすい様に座る席を考える		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内を行ったり、相談を受け たりする		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	どのように生活したいか、意向の把握 に努める。困難な場合は家族から情報 を収集する	家族から思いや意向について情報を得 ているが、利用者が家族に言いにくい ことなどは、日頃の生活から職員側が 推察している。	経過記録では、夜間の巡回時に実際に 処置をした利用者の分だけが記録され ているので、「異状あり、なし」だけ でも記録し、記録もれをなくすよう に期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	家族から暮らし方の情報を収集		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	健康状態、その日の状態を観察する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員と連絡や相談をしながら介護計画を作成する	ミーティングやカンファレンスで意見を出し合い、計画に反映させている。また、主治医からの指示もいただいている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で職員間で情報を共有しながら実践している		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の把握が行えている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開いて、地域の方々と情報を交換したりしている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡を取り、適切な医療を受けられる。夜間の医療も対応できている	かかりつけ医を基本としている。夜間の急変時には、提携医が往診してくれ、適切な医療支援ができています。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談したり、指導を受けたりし、利用者に安心な看護が受けられる		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族、病院と相談しながら、早期に退院できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけの医師と連絡しながら、職員間でケース会議を実施して支援に取り組む	かかりつけ医から家族に説明をしてもらい、同意を得ている。利用者の状態の変化に応じて家族、かかりつけ医と連携しながら対応している。亡くなられた後は、職員、利用者全員で通夜や葬儀に行き、家族としてお別れをしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より応急手当の指導を受けている		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している	区長、民生委員など運営推進会議メンバーも避難訓練に参加し、車いすの押し方などを知ってもらっている。地域の協力体制が整っており、避難場所の周知もされている。	コンロや冷凍品の準備はされているが、「長期保存用非常用」食材や備品類の整備にも期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように言葉かけに対応している	プライバシーを損ねないように職員同士注意しあっている。共用空間に掲載している写真や作品についても家族の許可を得ている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を表したりがなかなか職員に伝わらないが、自己決定できるように働きかけ工夫している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が施設に来て頂きカットを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に挨拶をして頂いている。また、作業能力に応じてテーブル拭きや食器拭きや片付け等を職員と一緒にしている	利用者は、力を活かして準備や片付けを積極的に手伝っている。食事の初めにはあいさつをし、楽しい会話をしながら食事されている。職員は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量チェックをしている。一人ひとりのペースに合わせて摂取の促しをしている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自力にて施工できる方については、見守りを行い口腔ケアをして頂いている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄を管理している。時間を見計らい、トイレ声かけ誘導を行い自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導により布パンツから紙パンツを経て自立できたケースがあった。日頃から自立に向け声かけをし、排泄チェック表で管理している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや体操やレクリエーションで運動を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回(火・木・土)の入浴を実施している。又利用者様からの要望があれば個々に応じた入浴の支援をしている。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調チェックをしている	昼から週3回の入浴を基本にしているが、本人からの希望があればいつでも入れるように支援している。入浴を楽しみにされている利用者が多く、5時過ぎることもあるが個別の入浴もとり入れている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠チェックを行っている。状況により仮眠を促している。また、照明調節を行い、安眠や休息の支援をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の説明を受け、職員に申し送りをを行い、服用時は職員が開封し見守りの上服用いただいている。情報を交換し症状の変化の確認に努めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力によって掃除や片付けなどをして頂いたり、余暇、レクリエーション活動においても一人ひとりの生活歴や経験等を考慮し支援している		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望や体調によって散歩等の外出を支援している。また、申し出により家族の方との外出・外泊等を支援している	毎日、食材の買い物に行ったり、一人だけでなく数人で出かけたりしている。利用者の希望により三社参りに出かける予定もある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については事務所に管理している。必要に応じて、ご本人、ご家族に説明し使用している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に利用者様からの申し出はないが、家族からの電話に取り継ぎ会話できるよう支援している		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活に困難をきたさぬ様、トイレ、居室等に目印を付けている。また、窓を開け外気を取り入れ空調調節を行ったり、時間によって照明調節を行っている	天窓から陽が差し込む共有空間の中心に、食卓やソファが置かれ、交流の場となっている。壁には利用者の作品や行事の写真が飾られている。利用者はゆったりと居心地よく過ごすことができている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが自分の居場所を確保できる様、リビングに誘導したり、気の合った利用者様同士が隣になるように誘導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花を飾ったり、希望があれば相談し、必要な物をお持ちいただいたりして、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室には、本人や家族と相談して、使い慣れたものや家族写真、位牌を持ち込んであり、安心して生活できる空間となっている。布団も各自の物を使っているなど配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の障害にならない様に家具、備品の配置を考慮している。また、掃除の手伝い等に柄付きモップ等、使いやすい用具を用意している		